

1. 行動日 3月19日～21日
2. 訪問場所 宮城県・仙台市、岩手県・釜石市～宮古市
3. 内容 被災者への支援物資及び激励

震災発生直後から「直ぐにでも現地に入って、支援物資を届け被災された皆さんを激励し、国会議員として現地の状況を見て、被災者のみなさんのために対策室と連携をとりながら、問題解決をしたい」と強く思いました。現地入りの日が決まったものの、すでに首都圏では物不足の状態でした。そこで急遽、関西方面の支援者のみなさんに支援物資を送っていただきました。物資によっては宅配便で輸送できない物資を、何と自分たちの手で東京まで届けてくれました。集まった支援物資は食料をはじめ衣類、各種燃料など本当に多くの物資が集まり、結局2台の車に積みきれない支援物資は、3日後に東京のスタッフが現地に運ぶこととなりました。

仙台で支援活動しているスタッフの皆さんと合流しましたが、スタッフの皆さんは自らも被災されながら、被災された皆さんの要望や必要な物資を聞き、支援物資を届ける作業をしていました。私も二つの避難所をまわり、支援物資をお渡しし、励ましの言葉をかけさせていただきました。

翌日は岩手県の釜石市から国道45号線を移動し宮古市まで数カ所をまわりました。沿岸部の被災状況は言葉に現せないほどのものでした。私はアフガニスタン復興支援や、パキスタン大地震緊急支援の経験がありますが、そのときの現地の状況に匹敵する、いやそれ以上の惨状だと感じました。被災地をまわって鉄道の被害状況も見ましたが、数人の被災者から「鉄道があると東京までつながっているという安心感がある。なんとしても鉄道を復旧してほしい」という切実な声も聞かせていただきました。

これから一日も早く、被災者の皆さんが安心して生活を送ることができるように最大の努力をいたします。



2011.3.19 仙台市内の避難所にて被災者に物資を渡す（撮影者）秘書 畠山



2011.3.20 釜石市にて、避難所に支援物資を運ぶ【出身労組の組合員】（撮影者）田城郁



2011.3.20 片岸町にて、津波に鉄橋も線路も流されたJR山田線（撮影者）田城郁



2011.3.20 片岸町にて、300メートル程度流された線路 (撮影者) 田城郁



2011.3.20 大槌町にて、まるで戦争後の惨状を見ているようだ 撮影者 田城郁